



人口減少問題について

とむらかつとし 新政会 戸村勝敏 議員

問 昨年11月30日に、令和2年国勢調査の確定値が公表されましたが、

前回の平成27年国勢調査と比較して、千葉県全体の人口は増加となっているものの、県内の農村部を中心とした半数以上の自治体が減少傾向であるとの結果でした。

そこで、本市における人口の推移について伺います。

答 市民部長 住民基本台帳上の人口の推移となりますが、町村合併当初の平成18年4月1日時点の人口は6万143人で、本年2月1日現在の人口4万9378人と比較しますと、1万765人減少し、17・9%の減少率となっています。

問 推測できる人口減少の要因として、出生者数と死亡者数の比較、いわゆる「自然増減」の状況について伺います。

答 市民部長 町村合併当初から、

本年2月1日現在までの累計で、出生者数が4392人、死亡者数が1万1381人となり、自然増減として6989人の減少となっています。

なお、一年あたりの比較については、【表1】のとおりです。出生者数は約47・4%の減少、死亡者数は約11・5%の増加となっています。

【表1】一年あたりの人数の比較

	平成18年度	令和2年度
出生者数	340人	179人
死亡者数	670人	747人

問 転入転出による社会増減の推移について、また、その主な理由について伺います。

答 市民部長 町村合併当初から、本年2月1日現在までの累計で、転入者数が延べ2万5884人、転出者数が延べ2万9485人で、転入者より転出者が上回り、3601人の減少となっています。

答 総合政策部長 本市では、人口減少対策の一環として、転入転出の傾向を調査するため、平成27年度から、転入または転出された方の中から、それぞれ400人を対象とし、郵送によるアンケートを実施しています。

令和3年度に実施したアンケート結果は、【表2】のとおりです。

【表2】転入転出に係るアンケート結果

理由		割合
転入	家族との同居	20.4%
	結婚	16.8%
	就職・転職・転勤・入学・進学	19.5%
	田舎暮らしを求めて	11.5%
転出	就職・入学	18.6%
	転勤	15.5%
	結婚	12.4%
	生活利便性の向上のため	20.6%
	職場・学校が近い	12.4%

問 高齢者層(65歳以上)の人口の推移とその傾向について伺います。

答 市民部長 町村合併当初の高齢者人口は、1万3243人で、総人口の22・0%でした。

本年2月1日現在の高齢者人口は、1万7967人となり、合併当初より総人口が1万765人減少する中で、高齢者人口は4724人増加し、総人口の36・4%となっています。

問 人口減少対策としての具体的な取組について伺います。

答 市長 最近では、コロナ禍の影響による地方移住への関心の高まりや、脱炭素・SDGsなど環境への意識改革が進んでおり、山武市のポテンシャルが発揮しやすい状況になりつつある

と感じます。

具体的には、三世帯同居等支援事業や結婚応援事業のほか、各種の子育て支援や特色ある教育の推進による子育てしやすい環境づくりなど、移住者や出生数の増加に直結する移住定住施策に取り組みとともに、都心や国際空港に近く、豊かな自然環境を活かした賑わいづくりなど、地域への愛着や誇りの醸成にさらに注力することにより、「誰一人取り残さない、持続可能で魅力的あるまちづくり」を進めていきます。

市記念日の制定について

問 平成18年の町村合併から、丸16年が経過します。今後さらに、山武市民が一体感を持つてまちづくりに参加することを期する日として、「さんむ」という文字の響きから、3月6日を「山武市の日」とし、市民の記念日に制定してはどうかと考えますが、市の見解を伺います。

答 市長 千葉県内においても、千葉市や成田市など、市民の日を制定している自治体もあります。

市民の皆様が、一体感を持って、郷土についての理解を深めるための記念日があるということは、意義あるものと考えます。

今後、その目的など、本市にとって相応しい在り方を含め、議員の皆様や、市

民の皆様からご意見を伺い、検討して
いきたいと考えます。

道路整備について

問 昨年7月27日に実施しました
通学路の緊急一斉点検後の進捗状況を
伺います。

答 教育部長 昨年の通学路緊急一斉点検では、各小中学校から交通量が多い箇所等の事前調査を行い、関係機関と検討を重ね、緊急性が高い危険箇所として選定した14か所について、点検を行いました。そして、その対策・改善策として、28項目について取り組んでいくこととしました。

昨年11月9日に開催した通学路安全推進会議において、関係機関が集まり、改善状況等を確認したところ、危険箇所14か所のうち6か所、対策・改善策28項目のうち22項目が完了しました。未了箇所は、本年3月までに完了できると、発注済みの箇所が6か所あり、対策・改善策も4項目が終了予定となっております。

なお、残り2か所は、千葉県警へ申請した案件や用地買収の案件であり、引き続き取り組んでいます。

また、本年3月には、今回の通学路合同点検対策箇所の対策・改善結果について、市ホームページに掲載し、市民への情報提供も予定しています。



通学路の安全整備について

問 戸村議員の代表質問において、
昨年7月27日の通学路緊急一斉点検の
実施後、28項目の対策・改善に取り組
んだとの答弁がありました。その具
体的な内容について伺います。

答 教育部長 主なものとして、
外側線の引き直し、草木の剪定、通学路
標識の掲示、カーブミラーの調整、用地
買収の確認、スピード抑制のための道路
標示（運転手への注意喚起の看板設置）、
グリーンベルトや停止線の引き直し等の
路面整備などを計画し、実施しました。
また整備途中の項目もありますので、
引き続き、関係機関と連携を図りなが
ら、完了に向け、取り組んでいきます。

問 今後、どのように通学路の安
全性を確保し、また、危険箇所の点検
や改善に対応していくのか伺います。

答 教育部長 今回実施した緊急
合同点検では、交通量の変化による危
険箇所の増加や、老朽化した箇所、各学

校の通学路の変更等について、関係機
関の気づきにつながりました。

そこで、山武市通学路交通安全プロ
グラムで定めている合同点検方法を、
従前の市内3グループ（①山武、②成東、
③松尾・蓮沼）に分けて行っていた方法
から、市内全体の合同点検を毎年実施
する方法へ変更しました。

また、各学校では、安全マップを作成
し、児童生徒の交通に対する安全意識
向上に取り組み、危険箇所に関する情
報を地域・家庭・学校で共有できるよ
う体制を構築しています。

幹線道路の整備について

問 現在整備中の、なるとうこ
も園付近の成東259号線道路改良事
業や、沿岸部から成東総合運動公園へ
向けた避難道路整備事業のうち、幹線
道路との交差点部分では、通勤通学の
時間帯には交通量が多く、信号機の設
置が必要と感じる箇所があります。
信号機の設置について、市の見解を
伺います。

答 建設環境部長 なるとうこ
も園入り口付近の交差点と、東消防署
から成東総合運動公園へ向かう間の幹
線道路との交差点の2か所については、
現地調査の段階で、市では、信号機設置
の必要性が高いと考え、千葉県警交通
規制課へ信号機設置の要望および交差

点協議を行いました。

しかし、現在は整備中ということも
あり、交通量などの基準を満たしてい
ない箇所であるため、すぐに設置され
る状況ではないとの回答に留まってい
ます。

問 信号機が設置されるまでの間
の、市の対応について伺います。

答 建設環境部長 追加の安全
対策について、再度、警察と協議を行い、
その協議の中で必要となった交通安全
対策を実施する予定です。

再度、公安委員会の見解を確認する
とともに、道路管理者だけでなく、関係
団体等の多方面から、継続的に信号機
設置に向けて要望していきたいと考え
ます。

問 高齢者をはじめ、地元の方々
が利用する生活道路の交差点での事故
が、近年目立ちます。市内道路全般の安
全対策について、市の見解を伺います。

答 建設環境部長 幹線道路や通
学路と同様に、事故の多い生活道路の
交差点も優先して交通安全対策工事を
実施しています。

交差点内の着色や十字線、巻き込み
線等のほか、カーブミラーや注意喚起
看板の設置など、視覚的あるいは物理
的に車のスピードを減速させるような
効果が期待できる手法を用いて、継続
的に実施したいと考えます。